

第3回DIMA特別講演会・交流会

最先端のマーケティング手法解説

目標を明確化して、ひらめきを得る

ダイレクト保険マーケティング協会(DIMA)は1月18日、東京都港区のストリングスホテル東京インターコンチネンタルで第3回DIMA特別講演会・交流会を開催した。同イベントは保険マーケティング業界に最新のダイレクト保険マーケティングの情報と相互交流の機会を提供することを目的に開かれているもので、事務局を全国約50社のクレジットカード会社のデータベースにおけるマーケティング実績があるダイレクトソリュシオンズ(DSG)が務めている。今回の講演会では、マーケティング分野の3人のトッププロが最先端のマーケティング手法などについて解説した。

プロダクト・ローンチに動画活用

開会に当たってDIMAの中西祐介理事長は「業界の3人のトップマーケティングによる講演から、すぐに現場で使えるマーケティングテクニクを学んだ後、参加者同士で交流を図り、楽しい思い出を持ち帰ってほしい」とあいさつした。

講演会ではまず、新商品のプロデュースや起業家のブランディングに特化した、数々のヒット商品や有名起業家を作り上げてきたリアルな安村幹代表取締役が「動画を使った最新のWEBマーケティングで売り上げを一気に10倍にする方法」と題して、スマートフォン時代における動画マーケティングの重要性などを説明した。

安村氏は動画は活からず、商品の販売前からリリースと同時に爆発的に売り上げるマーケティング手法である「プロダクト・ローンチ」に動画を活用することの効果などを解説。「プロダクト・ローンチはユーザーに価値を提供しながら、ユーザーとの信頼関係を築いていくもので、購入を促すことをせず、商品が欲しくなる心理状態をつくりだす」と述べ、全体の流れとしては、ビジネス向けのLINE@を用いて、顧客に喜ばれるプレゼントを用意するなど、顧客との信頼関係を醸成しながら、商品の必要性を感じさせる内容の動画を盛り込み、最終的に商品の販売ページを提示する」と話した。

動画のシチュエーションについては、最近の主流は「情報番組風」や「対談形式」となっており、動画制作に当たっては、親切にされたら、親切で返したくなる返報性の原理を意識した内容に

しなればならないと述べた。さらに、七つの心理トリガー(理由、共感、期待感、権威、希少性)を組み込むことで、プロダクト・ローンチの成功率は一気に高まると説明した。

ランダムなマーケティングが行われていたが、現在は正確な知識を持って正しいデータ活用によるマーケティングが行われており、平均収入や与信率、年齢層、月間取引件数、ロイヤリティなどのビッグデータから、顧客を見つけることができる可能性が高まっていると話した。

「今後、ビッグデータが保険業界を確実に変えていく」と話した。

「偶然が必然になるまで考える」と話した。

「この思考法を実践せず、従来の三段論法で考えているのは新しいことは生まれない」と指摘した。

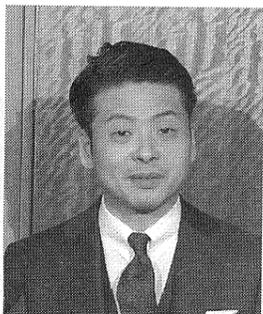
「『ひらめき』は必ず出てくるが、一人で考えるのではなく、フレンドなどで刺激やアイデアをもらうことが大切になる。『ひらめき』がすぐに使えるか否かを十分に検証し、実行することが不可欠だ」とし、「こうした方法を用いないと、競合会社がひらめきを、マーケティングがダウンサイジングしている中で、差別化を図ることは非常に難しい」との考えを示した。

「マーケティングポイントについては、商品やサービスが爆発的に売れるきっかけのことで、これをつくる必要があると説明。売り上げが上がるにつれて高単価商品に対して、自身でマーケティングポイントをつくり、短期間で売り上げを上げた事例を紹介し、「100店舗で1000個販売すれば大爆発と言える」と話した。

講演の後、DIMA事務局の平塚雄貴氏がDIMAの活動や今後の取り組みについて説明し、「今後は、さらに会員数を増やして活動を充実させ、将来的にはDIMAの法人化を目指したい」と述べた。



安村氏



中西理事長



シュオルツ氏



高倉氏

「悲慘な失敗か」をテーマに講演。一般的なビッグデータの定義として、ボリューム、

「保険のテレマーケティングの事例では、顧客の75%がオペレーターが誰であるかを気にしなかったが、25%は気にかけ

元ウプロ・ジャパン代表取締役ビジネスコンサルタントの高倉氏は「飛躍思考のマーケティングゼロベースで考える販売戦略」と題して、

「この思考法

「この思考法



多くの関係者が熱心に聴講した

速度、バリエーションを一定程度満たしているものとした上で、現在、保険会社はこうしたビッグデータを保有するようになっており、成長段階にあると述べた。

「最近では、腕時計などにさまざまな機能が組み込まれたデバイスが使われており、それによって歩行データなどが保険会社に送られ、データとして活用されている。また、クレジットカード関連やSNSを活用した販売経路などの戦略的パートナーから保険会社にビッグデータがもたらされる」とした上で、

「偶然が必然になるまで考える」と話した。

「この思考法

五訂版 FP基礎 ファイナンシャル・プランニング 赤堀勝彦著 (2018年9月刊) ●B5判・312頁 ●定価(本体3,500円+税) 送料450円+税 ISBN978-4-89293-300-4 お申込みはFAXまたはWebで FAX 03-3865-1431 http://www.homai.co.jp 保険毎日新聞社 東京都千代田区岩本町1-4-7 TEL 03-3865-1401